港区立白金小学校

令和6年度 授業改善推進プラン

_				
Ī		育成を目指す資質・能力	全国学力·学習状況調査	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
		・平仮名、片仮名、漢字を	・どの学年も漢字の定着や言葉の	・授業やモジュールの時間、家庭学習を活用して、
		正しく書き、活用する力。	理解が十分でない。	平仮名、片仮名、漢字練習をし、定着を図る。
		・資料を活用するなどして、	・文を読んで大体の内容は理解で	・文型を提示し、理由や具体例を入れたり資料を活
		自分の考えを筋道の通っ	きるが、問題に沿って言葉を抜き	用したりしながら自分の考えをまとめる練習を重ね
		た文章となるように全体の	出せなかったり、自己解釈が入っ	る。また、ICTの活用により児童同士の学習過程や
	国	構成を考えて書いたり表現	て正確にまとめられなかったり、読	学習成果物を共有することで、表現方法の幅を広
	国語	したりする力	み取りが浅かったりする。	げる。
		・言葉を使って他者と協働	・目的意識をもって他者と協働し	・話し合いの目的や方法、相手を明確に示して指
		する力や、自分の感情や字	ようとしたり、話し手の目的や自分	導する。教師による積極的なモデリングを行う。他
		考えを表現する力。また、	が聞こうとする意図に応じて話の	教科との連携を図りながら話し合い活動を取り上
		学び続ける意欲や他者と	内容を捉えたりする力の課題があ	げた単元の設定をし、話し合い活動の年間回数を
		のコミュニケーションを通	ప .	保証する。
		じて自己を高める姿勢		
Ī		育成を日指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫

育成を目指す資質・能力 ・社会的事象の見方・考え

方を働かせ、社会の様子や 仕組みを理解する能力

・資料から必要な情報を読 み取る能力

字省評価等に基つく課題

- ・資料から必要な情報を適切に読 み取る力に個人差がある。
- ・社会的事象などについて学習用 語を用いて説明する力が不十分 である。

貧質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫

- ・資料の読み取り方を具体的に繰り返し指導すると ともに、様々な資料に触れさせることによって応用 力を身に付けさせる。
- ・児童同士や担任と児童など形態を変えて、学習し て分かったことなどを説明し合う機会を意図的に 設定し練習する。学習のまとめなど発表の場を多く 設ける。

育成を目指す資質・能力

- 数量や図形などについて 基礎的・基本的な概念や性 質を理解し、日常の事象を 数理的に処理する力
- ・見通しをもち筋道を立て て考察する力
- ・数学的な表現を用いて事 象を簡潔・明瞭・的確に表 したり、目的に応じて柔軟 に表したりする力

全国学力·学習状況調査

- ・グラフや図形の意味や性質、構 成要素の理解が十分でない。
- ・日時や場所等の観点などからデ ータを正確に分類整理することが 十分でない。
- ・計算の意味などに着目し、これま での学習と関連させたり、発展的 に考察したりすることが難しい。
- ・単位の付け忘れ、間違いが多い。
- ・式の立て方の理解が十分でな \ \

資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫

- ・レディネステスト等により、算数少人数クラスを展 開する。基礎基本の習得が必要なクラスと発展的 な内容や自由進度学習を進めるクラスと指導体制 の工夫を行う。
- ・学習内容の定着が図れるよう個に応じた課題解 決の時間を確保する。
- ・これまでの学習と関連させて考えられるよう、課 題提示の工夫を行い、自分の考えを表現させるペ アやグループで話し合い活動を通して、よりよい考 えや表現方法に気付くようにする。
- ・具体物の操作を授業内で積極的に行う。
- ・他者に考えを説明する活動を取り入れる。

社会

	力・理科的な思考力・判断力	り、実験を正しく行ったりすることができない。	ことを書いたり発表したりする機会を増やす。 ・問題作りにおいて、児童が解決可能だと見通しの		
	を働かせて表現する力。	・問題作りから結論を導くまでの	もてる問題を立てられるように事象提示を工夫し、		
	・理科の学習用語を正しく	 思考の流れが定着していない。	既習事項や身近な経験と問題を関係づけながら仮		
理科	理解する力	・用語を先行学習して知っている	説を立てられるようにする。実験から考察について		
1-1		児童がいるが、内容を理解してい	も、常に問題や仮説と比較させながら考えさせるこ		
		ない。そのため、授業での新出用	とで思考力の向上を図る。考察が難しい児童には		
		語との混在をしてしまうことがあ	記述する際の話型を示す。		
		る。	・言葉を正しく使って説明したりまとめたりする時		
			間をとり、CBT タワーを活用して定着を図る。特に		
			植物や動物に関する知識の底上げを図る。		
	<u> </u>				
	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫		
	・自然事象を継続的に観察	・観察したことを観察カードに書く	・観察の段階で具体的な視点を明確にし、カードに		
	し、植物に親しみをもち、大	ことはできるが、そこから気付きや	まとめる際には、個に応じたワークシートや課題を		
	切にする姿勢	発見をまとめていく力に課題があ	用意するなどの工夫をする。		
生活	・学校、または学区内の施	ప .	・ペアやグループでの話し合いを通して、気付きや		
	設や人々の様子とその関	・友達に伝える表現力が十分では	発見をクラスで共有する時間を確保する。すぐれた		
	わりが分かり、楽しく安心	ない。	ワークシートを紹介して高め合わせる。		
	して学校生活を送ろうとす				
	る態度				
	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫		
	・音楽表現を工夫すること	・よりよい表現を追求したり、深め	・自分が感じたことや気付いたことなどを友達同士		
	や、音楽を味わって聴くこ	たりしていくことに課題がある児童	で伝え合ったり、考えを広げたりしていく活動を取		
音楽	とができるようにする力	が多い。	り入れる。		
楽	・曲想と音楽の構造などと	・鍵盤ハーモニカやリコーダーなど	・個別の練習時間を確保したり、一人一人の状況		
	の関わりについて理解する	の学習で、運指などの習得に差が	を確認したりしながらスモールステップで進めてい		
	能力や表したい音楽表現	ある。	<. □		
	をするために必要な技能				

学習評価等に基づく課題

・観察したことを適切に表現した

資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫

・実験や観察等の体験活動を増やし、気が付いた

育成を目指す資質・能力

・観察や実験を正しく行う

育成を目指す資質・能力 学習評価等に基づく課題 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 ・参考作品や友達の作品、物語や ・文章や音といった絵画要素のないものから発想 ・造形的なよさや美しさ、表 したいこと、表し方につい 写真など創造的に発想したり構想 を膨らませる授業に取り組む。 図工 て考え、創造的に発想や構 したりする材料と深く触れ合い、自 ・児童が互いの作品を見合える環境を作り、アイデ 想をしたり、作品に対する 身の発想や構想を深める アを得られやすくする。 ・題材導入時の交流を大切にし、発想のプロセスを 見方や感じ方を深めたりす る力 共有させる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・日常生活に必要な基礎的	・技能面で個人差が大きく、学習	・児童同士が教え合うことで、互いの理解を深める
	な理解を図るとともに、そ	活動に対する興味関心にも影響し	時間を設ける。
家庭	れに係る技能	ている。	・視覚的な動画教材を活用し、理解しやすくする。
<i>//</i> C		・自分なりに思考したことを、技能	・反復学習により、技能の習熟を図る。
		が追いつかず表現(製作)できな	
		い児童がいる。	
	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	日/久と口1日り貝貝 配//	基づく課題	貝貝 肥力で自む指導力体 指等体制の工人
	・その特性に応じた各種運	・新体力テストの結果によると、ど	【体力向上】
	動の行い方や健康・安全に	の学年のどの種目も区や都の平	・各教室に配置されている握力計を活用したり、
	ついて理解する力と、基本	均を上回っている。	固定遊具やボルダリングウォールで遊ぶように声を
	的な動きの技能	・第6学年女子は、ソフトボール投	掛けたりし、休み時間などに楽しみながら握力を高
	・運動や健康について自己	げ,20mシャトルラン、握力が全国	められるようにする。また、握力系の調整の仕方を
	の課題を見付け、その解決	平均を下回っている。	すべての学年で練習し、できるようにさせる。(握
	に向けて思考し判断すると	・握力は、全国平均を上回ってい	カ)
	ともに、他者に伝える力	るが数値が減少傾向にある。ボル	・昼休みにスポンジボールでの遊びを開放したり、
	・運動に親しみながら健康	ダリングウォールができた当初に	体育館に的あての場をつくったりして、ボール投け
	の保持増進と体力向上を	比べて、遊んでいる児童が少な	の経験を増やすようにする。(投力)
	目指し、豊かなスポーツラ	٧٠°	・持久走カードや縄跳びカードを配布し、休み時間
	イフを実現していく態度	・ボールを遠くに投げたり、長い時	に挑戦できるようにする。また、学校全体で長縄の
		間走り続けたりする経験が日常的	回数を高め合う取り組みを行う。(持久力)

に少ない。運動が得意な児童と、

全くできない児童とで二極化して

いる。特に家庭や、塾での学習の

量が多い高学年には、持久力や握

・学習については、個人の気持ち ややりたいことのみが優先されて

しまい、お互いに高め合える集団

になっていない場面がある。勝ち

負けを受け入れる態度も育ってい

ない児童が多い。また、自己やグ

ループの体力や実態に応じた課題

を意識して運動することができる

児童が少ない。

力の低下が顕著にみられる。

体育

カ、瞬発力) ・授業の帯の時間で、キャッチボールや、握力アップ 体操、短縄、持久走、柔軟ストレッチ等を実施する ことでそれぞれの体力の向上を図る。

・立ち幅跳び、反復横跳びの場を作り、いつでも記

録に挑戦できるようにする。また、運動委員会の児

童が、全校に挑戦を呼びかけるように促す。(跳躍

【授業改善】

- ・運動の楽しさを実感できる場の設定や教材を工 夫したり、スモールステップで授業を進めたりしな がら、基礎的な動きを身に付けるようにする。
- ・一斉指導だけでなく、ICT を活用し、自己やグループの能力にあった試技や、技ポイントを動画等で 視聴することができる環境を整えることによって、 個別最適な学びができるようにする。
- ・教員が指導する場合に、技能ポイントを理解して、明確に伝えられるようにする。
- ・ICT を活用して、自分の動きを客観的に捉えて友達と課題を話し合うことで解決に導けるようにする。

				0 - 11 - 11 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1
し、互いに協力して高め合えるようにする。 ・各領域の単元を始める際に、児童や前年度の担任に財産事項を確認し、系統性を意識した指導を行う。 ・自己やグループの実態や体力に応じた学習課題を立て、行動し、振り返りを行うといった学びのサイクルを確立するようにする。 ・自己やグループの実態や体力に応じた学習課題を立て、行動し、振り返りを行うといった学びのサイクルを確立するようにする。 ・自己やグループの実態や体力に応じた学習課題を立て、行動し、振り返りを行うといった学びのサイクルを確立するようによるコミュニケーション能力 ・日国や他国の文化について学び、国際社会に対応できる国際人としての資質 ・相子意識を働かせて表現することを楽しめる授業づくりを行う。 ・相子意識を働かせて表現することができるように、見通しをもたせ、必要な児童には具体的な支援を行う。 ・単元の最終活動を魅力的なものにし、伝えたいで等を自身で考えることができるように、見通しをもたせ、必要な児童には具体的な支援を行う。 ・本の考えを深め合う力・学んだ価値項目を実践していても実生活で生かすことが難しい。 ・学んだことを理解していても実生活で生かるのよりを得るという。学んだ価値項目を実践していこうとする道徳的実践 カー・事団生活をよりよいものに、進んで話し合い、合意形成していて。とかできる力・・全部に行動する活動し合い、合意形成していて、ことができる力・・主体的に行動する活動したり、信動的に学習を進りましたりできた経験が少ない。活し合いではよって課題を解決できた経験が少ない。活し合いではよって課題を解決できたが含るように、自分の思いだけにごだわるのではなく、を様な考えを専重し合いながら合意形成に至る話したり、方は、自分の思いだけにごだわるのではなく、をができる力・・主体的に行動する活動し、ことに課題を解決できたびできるように、自分ともで解決する体験をさせたり、全体について考える後会ができる資質や能力・などのも含めがような助言したりする。ことに課題がある。・ことに課題がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・ことは明知がある。・こと体のに行動する活動、は動的なできるがたらの能力を対したり活動から役割ができてきたりできる資質や能力				
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				を振り返ったりする時間を、体育の時間内で確保
存成を目指す資質・能力				し、互いに協力して高め合えるようにする。
行う。				・各領域の単元を始める際に、児童や前年度の担
自己やグループの実態や体力に応じた学習課題を立て、行動し、振り返りを行うといった学びのサイクルを確立するようにする。 育成を目指す資質・能力 学習評価等に基づく課題 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 ・・ 生量が配け、一・ 生量が配け、一・ 生量が配け、一・ 生産を発して、に細りがある。 ・ 生量が配け、一・ 生産を発して、に細りがある。 ・ 生量が配け、一・ 生産を発して、に細りがある。 ・ 生産を発しると検索づくりを行う。 ・ 生産を含む、中土の政界経済動を魅力的なものにし、伝えたい内容を自身で考えることができるように、見通しをもたは、必要な児童には具体的な支援を行う。 ・ 生体の考えを深め合う力・ ・ 学んだことを理解していても実生活で生かすことが難しい。 ・ 一・ 生ができるように、見通しをもたいろとする道徳的実践力 ・ 生がたことを理解していても実生活で生かすことが難しい。 ・ 一・ 生がたことを理解していても実生活で生かすことが難しい。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・				任に既習事項を確認し、系統性を意識した指導を
を立て、行動し、振り返りを行うといった学びのサイクルを確立するようにする。 育成を目指す資質・能力 ・英語によるコミュニケーシ ョン能力 ・自国や他国の文化につい で学び、国際社会に対応で きる国際人としての資質 ・作力・審しの最終活動を魅力的なものにし、伝えたい内 容を自身で考えることを楽しめる授業づくりを行う。 ・単元の最終活動を魅力的なものにし、伝えたい内 容を自身で考えることができるように、見通しをも たせ、必要な児童には具体的な支援を行う。 ・単元の最終活動を魅力的なものにし、伝えたい内 容を自身で考えることができるように、見通しをも たせ、必要な児童には具体的な支援を行う。 ・ 単元の最終活動を魅力的なものにし、伝えたい内 容を自身で考えることができるように、見通しをも たせ、必要な児童には具体的な支援を行う。 ・ 単元の最終活動を魅力的なものにし、伝えたい内 容を自身で考えることができるように、見通しをも たせ、必要な児童には具体的な支援を行う。 ・ 本の取り組みに個人差がある。 ・ 学校を考えに触れ、それ ・ 集団で生活する力や規範意識が ・ 道徳の授業では、考えを交流する機会を設け、多様な考えがあることに気づかせ、思考を深めるきっ かける作る。 ・ 他教科の学習や、行事、普段の生活の中でも児 童の行動に道徳的価値づけをする。 ・ 他教科の学習や、行事、普段の生活の中でも児 童の行動に道徳的価値づけをする。 ・ 一名形成していくことができるよりよいもの にするために、進んで話し 合い、合意形成していくことができる力 ・ 主体的に行動する活動し たり、協働的に学習を進め たり、協働的に学習を進め たり、協働的に学習を進め たり、協働的に学習を進め たりする力 ・ 自分の役割を自覚し、責 主体的に行動する活動、協働的 な学習の場面、児童の考えや意見 が反映される機会が不十分。 ・ 役割や責任について考える機会 るようにする。そういった活動から役割や責任につ				行う。
育成を目指す資質・能力 学習評価等に基づく課題 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 の				・自己やグループの実態や体力に応じた学習課題
育成を目指す資質・能力 学習評価等に基づく課題 ・全員が発話・発表する機会を保証し、自信をもって発表することを楽しめる授業づくりを行う。・単元の最終活動を魅力的なものにし、伝えたい内で学び、国際社会に対応できる国際人としての資質 と、自身の課題を見つけて学ぶことで、と、自身の課題を見つけて学ぶことで、と、自身の課題を見つけて学ぶことで、と、必要な児童には具体的な支援を行う。・学のの取り組みに個人差がある。 ・ 学習評価等に基づく課題 ・ 資徳の授業では、考えを交流する機会を設け、多様な考えに触れ、それ・学人だ価値項目を実践していこうとする道徳的実践力 ・学人だことを理解していても実生活で生かすことが難しい。 ・ 学の行動に道徳的価値づけをする。 ・ 他教科の学習や、行事、普段の生活の中でも児童の行動に道徳的価値づけをする。 ・ 他教科の学習や、行事、普段の生活の中でも児童の行動に道徳的価値づけをする。 ・ を受け入れたり、尊重したりできるように、議題のもたせ方・話し合い、合意形成していくことができる力。・				を立て、行動し、振り返りを行うといった学びのサイ
・英語によるコミュニケーション能力				クルを確立するようにする。
・英語によるコミュニケーション能力				
国家 に偏りがある。		育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
■ 自国や他国の文化について学び、国際社会に対応できる。		・英語によるコミュニケーシ	・児童一人で発話・発表する機会	・全員が発話・発表する機会を保証し、自信をもっ
で学び、国際社会に対応できる国際人としての資質と、自身の課題を見つけて学ぶことへの取り組みに個人差がある。 と、必要な児童には具体的な支援を行う。 たせ、必要な児童には具体的な支援を行う。 たせ、必要な児童には具体的な支援を行う。 を構な考えに触れ、それ ・ 集団で生活する力や規範意識が ・ 道徳の授業では、考えを交流する機会を設け、多様な考えに触れ、それ ・ 学ので生活する力や規範意識が ・ 一 では、	되	ョン能力	に偏りがある。	て発表することを楽しめる授業づくりを行う。
きる国際人としての資質 とへの取り組みに個人差がある。 たせ、必要な児童には具体的な支援を行う。 育成を目指す資質・能力 学習評価等に基づく課題 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	際	・自国や他国の文化につい	・相手意識を働かせて表現するこ	・単元の最終活動を魅力的なものにし、伝えたい内
育成を目指す資質・能力 学習評価等に基づく課題 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 ・多様な考えに触れ、それ ・集団で生活する力や規範意識が がな考えがあることに気づかせ、思考を深めるきっかけを作る。 ・学んだことを理解していても実生 たいこうとする道徳的実践 力 で表がことが難しい。 ・値教科の学習や、行事、普段の生活の中でも児童の行動に道徳的価値づけをする。 「ない、こうとする道徳的実践 方で生かすことが難しい。 ・値教科の学習や、行事、普段の生活の中でも児童の行動に道徳的価値づけをする。 ・集団生活をよりよいものに、進んで話し合い、合意形成していくことができる力・主体的に行動する活動したり、事重したりできる方ではなく、とができる力・主体的に行動する活動したり、信動的に学習を進めたりずるから、自分の役割を自覚し、責任をもって活動することができるように、自分の役割を自覚し、責任をもって活動することができるように、自分の役割を自覚し、責任をもって活動することができる場面に発売する。・児童主体の学校活動や係や当番活動などを通じて、主体的に行動する活動、協働的な学習の場面、児童の考えや意見で、考えることができるような助言したりする。・児童主体の学校活動や係や当番活動などを通じて、主体的に行動したり協働的に学習できたりできるようにする。そういった活動から役割や責任について考える機会		て学び、国際社会に対応で	と、自身の課題を見つけて学ぶこ	容を自身で考えることができるように、見通しをも
・多様な考えに触れ、それ		きる国際人としての資質	とへの取り組みに個人差がある。	たせ、必要な児童には具体的な支援を行う。
・多様な考えに触れ、それ でれの考えを深め合う力 (低い児童が多い。 学んだ価値項目を実践し でいこうとする道徳的実践 力				
・多様な考えに触れ、それ でれの考えを深め合う力 (低い児童が多い。 学んだ価値項目を実践し でいこうとする道徳的実践 力		+ 1 + 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	244 777 277 / Tr (547) = ++ = 2 / 2 H H F	755 ALL 2 TO 1 V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L V X L X L
道徳 ぞれの考えを深め合う力				
 ・学んだ価値項目を実践していても実生でいこうとする道徳的実践力 ・一学んだことを理解していても実生でいこうとする道徳的実践力 ・他教科の学習や、行事、普段の生活の中でも児童の行動に道徳的価値づけをする。 ・他教科の学習や、行事、普段の生活の中でも児童の行動に道徳的価値づけをする。 ・集団生活をよりよいものにするために、進んで話したりできるために、進んで話したり、尊重したりできるい、合意形成していくことができる力できるができる力できるができる力できたり、住人のによって課題を解決でできるができるから、活動に移行させ、自己の言動等を振り返り改善にない、もりする力できたり、法経験が少ない。できる資質や能力できるとに課題がある。できる資質や能力を対したり、責任をもって活動することができるように、自分の役割を自覚し、責めの役割を自覚し、責めの役割を自覚し、責めの役割を自覚し、責めの役割を自覚し、責めの役割を自覚し、責めの役割を自覚し、責めの役割を自覚し、責めの役割を自覚し、責めの役割を言じたりする。できる資質や能力を対したりする。できる資質や能力を対したりする。 ・主体的に行動する活動、協働的な学習の場面、児童の考えや意見できるような助言したりする。できる資質や能力を対したりする。で、主体的に行動したり協働的に学習できたりできるようにする。そういった活動から役割や責任について考える機会 		- 1,		
・子んだ価値項目を実践していてきます。	道	ぞれの考えを深め合う力	低い児童が多い。	様な考えがあることに気づかせ、思考を深めるきっ
	1心	・学んだ価値項目を実践し	・学んだことを理解していても実生	かけを作る。
育成を目指す資質・能力 学級活動、学校行事等の課題 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 ・集団生活をよりよいもの にするために、進んで話し 合い、合意形成していくこ とができる力 ・主体的に行動する活動し たり、協働的に学習を進め たりする力 ・自分の役割を自覚し、責 任をもって活動することが できる資質や能力 ・ に自分の思いを優先し、他者の意 ・ ・ 教師がモデルを示し、議題のもたせ方・話し合い ・ ・ 教師がモデルを示し、議題のもたせ方・話し合い ・ 活動に移行させ、自己の言動等を振り返り改善に っなげる。自分の思いだけにこだわるのではなく、 多様な考えを尊重し合いながら合意形成に至る話し合いの仕方を身に付けることができるように、自分の役割を自覚し、責 ・ 主体的に行動する活動、協働的 な学習の場面、児童の考えや意見 ・ 児童主体の学級活動や係や当番活動などを通じて、主体的に行動したり協働的に学習できたりできる。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		ていこうとする道徳的実践	活で生かすことが難しい。	・他教科の学習や、行事、普段の生活の中でも児
・集団生活をよりよいものにするために、進んで話し見を受け入れたり、尊重したりできたができる力できる力できる力できる力できる力できる力できる力できる力できる方できる力できる方できる力できる方できる力できる方できる力できる方できる力できる方できる力できる方ではない。とができる力できる方ではない。とができる力ではない。とかりまる力ではないではないではないがある。ではなら、は多様な考えを尊重し合いながら合意形成に至る話したりする方ではなら、自分の役割を自覚し、責いをしたりするがった意見をまとめたりする方ではなら、企業型がある。では、自己のは大き身に付けることができるように、自分の役割を自覚し、責いをしたります。といった活動することができるような助言したりする。できる資質や能力が反映される機会が不十分。できる資質や能力が反映される機会が不十分。できる資質や能力が反映される機会が不十分。できる方にする。そういった活動から役割や責任について考える機会をしたりできるようにする。そういった活動から役割や責任について考える機会がある。そういった活動から役割や責任について考える機会がある。そういった活動から役割や責任について考える機会がある。そういった活動から役割や責任について考える機会がある。そういった活動から役割や責任について考える機会がある。そういった活動から役割や責任について考える機会がある。そういった活動から役割や責任について考える機会がある。そういった活動から役割や責任について考える機会がある。そういった活動から役割や責任について表えるとかできるようにする。そういった活動から役割や責任についてもないます。		力		童の行動に道徳的価値づけをする。
・集団生活をよりよいものに、進んで話した。自分の思いを優先し、他者の意味がモデルを示し、議題のもたせ方・話し合いにするために、進んで話した。 見を受け入れたり、尊重したりできたい。 お動に移行させ、自己の言動等を振り返り改善にたいできる力できる力できた経験が少ない。				
にするために、進んで話し		育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
会い、合意形成していくことができる力 ・話し合いによって課題を解決で っ なげる。自分の思いだけにこだわるのではなく、 多様な考えを尊重し合いながら合意形成に至る話動 たり、協働的に学習を進めたりする力 ・自分の役割を自覚し、責任をもって活動することができるように、自会の役割を自覚し、責任をもって活動することがな学習の場面、児童の考えや意見がまる。 ・児童主体の学級活動や係や当番活動などを通じてきる資質や能力 が反映される機会が不十分。 ・役割や責任について考える機会 るようにする。そういった活動から役割や責任について考える機会		・集団生活をよりよいもの	・自分の思いを優先し、他者の意	・教師がモデルを示し、議題のもたせ方・話し合い
とができる力 ・主体的に行動する活動したり、協働的に学習を進めたりする力 ・自分の役割を自覚し、責任をもって活動することができるよができるような助言したりする。 ・主体的に行動する活動、協働的できるような助言したりする。 ・主体的に行動する活動、協働的できるような助言したりする。 ・立きる資質や能力が反映される機会が不十分。・役割や責任について考える機会を対した。とができるような助言したりは働いに学習できたりできるような方に、自分の役割を自覚し、責任をもって活動することができるような助言したりする。・児童主体の学級活動や係や当番活動などを通じて、主体的に行動したり協働的に学習できたりできるようにする。そういった活動から役割や責任について考える機会を対した。		にするために、進んで話し	見を受け入れたり、尊重したりでき	のルールを明確に提示する。その後、児童主体の
・主体的に行動する活動したり、協働的に学習を進めたりする力・自分の役割を自覚し、責任をもって活動することができる活動、場面の場面、児童の考えや意見できる資質や能力が反映される機会が不十分。・役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任について考える機会をする。そういった活動から役割や責任についてものに対したりは使用をする。そういった活動から役割や責任についてものに対している。		合い、合意形成していくこ	ていない。	活動に移行させ、自己の言動等を振り返り改善に
が反映される機会が不十分。 ・役割や責任について考える機会 し合いの仕方を身に付けることができるように、自分の役割を自覚し、責が反映される機会が不十分。 ・役割や責任について考える機会 し合いの仕方を身に付けることができるように、自分たちで解決する体験をさせたり、全体について考える機会 し合いの仕方を身に付けることができるように、自分たちで解決する体験をさせたり、全体について考えるとができるような助言したりする。 ・児童主体の学級活動や係や当番活動などを通じて、主体的に行動したり協働的に学習できたりできるように、自分たちで解決する体験をさせたり、全体について考えるとができるように、自分たちで解決する体験をさせたり、全体についてきるように、自分に対したりは動きに対する。そういった活動から役割や責任について考える機会 るようにする。そういった活動から役割や責任について考える機会 し合いの仕方を身に付けることができるように、自分たちで解決する体験をさせたり、全体について考えるように、自分に対する体験をさせたり、全体について考えるように、自分に対する体験をさせたり、全体についてできるように、自分に対する体験をさせたり、全体についてできるように、自分に対する体験をさせたり、全体についてできるように、自分に対する体験をさせたり、全体についてできるように、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対するとは、自分に対する		とができる力	・話し合いによって課題を解決で	つなげる。自分の思いだけにこだわるのではなく、
・自分の役割を自覚し、責 ・主体的に行動する活動、協働的 を学習の場面、児童の考えや意見 できる資質や能力 が反映される機会が不十分。 ・役割や責任について考える機会 ・ カバラをが、する体験をさせたが、主体にするといる ・ 児童主体の学級活動や係や当番活動などを通じて、主体的に行動したり協働的に学習できたりできるようにする。そういった活動から役割や責任につ	特	・主体的に行動する活動し	きた経験が少ない。	多様な考えを尊重し合いながら合意形成に至る話
・自分の役割を自覚し、責 ・主体的に行動する活動、協働的 な学習の場面、児童の考えや意見 できる資質や能力 が反映される機会が不十分。 ・役割や責任について考える機会 ・児童主体の学級活動や係や当番活動などを通じ て、主体的に行動したり協働的に学習できたりでき るようにする。そういった活動から役割や責任につ	別活	たり、恊働的に学習を進め	・話し合って挙がった意見をまとめ	し合いの仕方を身に付けることができるように、自
任をもって活動することが な学習の場面、児童の考えや意見 ・児童主体の学級活動や係や当番活動などを通じ できる資質や能力 が反映される機会が不十分。 ・役割や責任について考える機会 るようにする。そういった活動から役割や責任につ	動	たりする力	ることに課題がある。	分たちで解決する体験をさせたり、全体について
できる資質や能力 が反映される機会が不十分。 て、主体的に行動したり協働的に学習できたりでき ・役割や責任について考える機会 るようにする。そういった活動から役割や責任につ		・自分の役割を自覚し、責	・主体的に行動する活動、協働的	考えることができるような助言したりする。
・役割や責任について考える機会 るようにする。そういった活動から役割や責任につ		任をもって活動することが	 な学習の場面、児童の考えや意見	・児童主体の学級活動や係や当番活動などを通じ
・役割や責任について考える機会 るようにする。そういった活動から役割や責任につ		できる資質や能力	 が反映される機会が不十分。	 て、主体的に行動したり協働的に学習できたりでき
				るようにする。そういった活動から役割や責任につ
				1 2.22. 22.22.2

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・主体性と自律性: 児童が	・児童が主体的に課題を設定する	・主体性と自律性の育成: 児童が主体的に課題を
	自ら考え、課題を設定し、	力が不足しているため、学習した	設定できるよう、日常生活や地域社会に関連する
総合	その解決に向けて行動す	ことを深く掘り下げることができな	具体的な問題提起を行い、興味を引き出す。
総合的な学習の時間	る力	l, v°	・協力とコミュニケーションの促進: 課題解決に向
学	・協力とコミュニケーション:	・課題解決に向けた協力とコミュニ	けて協力し合う力を育むために、グループ活動や
省の	他者と協力し、意見を交換	ケーションのスキルが十分に発揮	ディスカッションを通じて、他者とのコミュニケーシ
時 間	し合いながら課題を解決す	されていない。	ョンを促進する。
	る力		・実体験を重視した学び: フィールドワークや実地
			調査を通じて、実際の経験を通じた学びを重視し、
			学習の成果を生活に生かす方法を具体的に示す。